

延岡市文化財報告書第41集

ひがしばる きたくぼやま
東原遺跡(第7次)・北久保山遺跡(第2次)

市道川水流獺越線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010年

宮崎県延岡市教育委員会

序

日頃より埋蔵文化財の保護・活用に関しまして深いご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。延岡市教育委員会では、北方町川水流東原地区及び北久保山地区内に所在する埋蔵文化財発掘調査を実施しました。本書は、その報告書です。

本書の刊行を通して、地域の文化財に対する理解と認識が、ますます深まっていくことを願うとともに、今回の成果が社会教育・学校教育等で広く活用されれば幸いに存じます。

最後になりましたが、事業の推進にあたってご協力をいただきました市民の皆様をはじめ、ご指導ご助言をいただきました宮崎県教育委員会文化財課、北方農林課、川水流区、北久保山区など関係機関の皆様に対し、こころより感謝申し上げます。

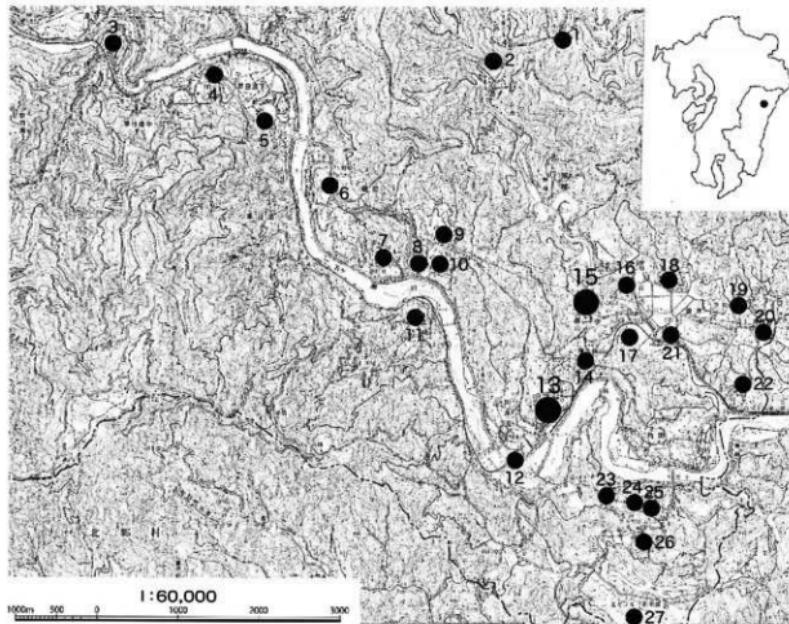
延岡市教育委員会
教育長 町田 剛久

例　　言

1. 本書は、平成21年度市道川水流嶺越線道路改良事業に伴い北方建設課の委託を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
2. 調査は、延岡市教育委員会が主体となり、同文化課文化財専門員 小野信彦が担当した。
3. 本書に使用した遺構・遺物の実測・トレイス・図面作成は、小野信彦、敷石サヨ子、藤本千鳥、森有美、山木敬子が行なった。
4. 現場及び遺物の写真撮影は、小野が行った。空中写真的撮影は、九州航空(株)が行った。
5. 方位は磁北を示し、本書に使用したレベルはすべて海拔高である。
6. 本書の執筆・編集は、小野が行った。
7. 本書で使用した写真・図面については、延岡市教育委員会で保管している。
8. 出土遺物は、延岡市教育委員会にて保管しており、今後展示公開の予定である。

目　　次

I はじめに	
1. 位置と歴史的環境	1
2. 調査に至る経緯	1
3. 調査の組織	1
II 調査の内容	
1. 調査の概要	2
2. 基本層序	2
3. 東原遺跡	3
4. 北久保山遺跡	4
5. 遺構と遺物	6
III おわりに	7
報告書抄録	10



1. 延岡市北方町主要遺跡位置図(1/60,000)

番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
1	小原遺跡	板下(小原)戸	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
2	藤の大桑水流遺跡	藤の木(桑水流)西	集落跡	縄文～中世	平成5年確認調査、一部消滅
3	城遺跡	早土(城)巳	中世山城	縄文～近世	山城の大部分は削平されている
4	打扇遺跡	早土(打扇)巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
5	早日渡跡	早日渡巳	集落跡	旧石器～近世	平成2年～12年調査、一部保存
6	矢野原遺跡	藏田(矢野原)辰	集落跡	旧石器～近世	平成5年調査、一部消滅
7	藏田遺跡	藏田辰	集落跡	旧石器～近世	昭和62年～平成5年調査、一部消滅
8	藏田城	中世山城	中世		堀等が良好に残る
9	駄小屋遺跡	藏田(駄小屋)辰	散布地	旧石器～近世	
10	戸上遺跡	藏田(戸の上)辰	散布地・石棺群	旧石器～近世	石棺群は消滅
11	上崎地区遺跡	藏田(上崎)辰	集落跡	旧石器～近世	平成12年度～19年度まで調査、一部消滅
12	川水流遺跡	川水流卯	集落跡	旧石器～近世	中世山城の可能性、一部消滅
13	東原遺跡	川水流(東原)卯	散布地	旧石器～近世	一部消滅
14	南久保山小崎町遺跡	南久保山(小崎町)子	集落跡	旧石器～近世	一部消滅
15	北久保山遺跡	北久保山子	散布地	縄文～近世	一部消滅
16	仲畑城跡	鷺越(仲畑)子	中世山城	中世	堀等が残る
17	菅丁鍾乳洞跡	曾木(菅丁鍾)子	石棺群	古墳	県指定北方村古墳1号墳
18	後曾木遺跡	曾木(後曾木)子	散布地・石棺群	古墳	県指定北方村古墳3号墳
19	笹原遺跡	曾木(笹原)子	散布地	縄文～近世	
20	曾木原遺跡	曾木(曾木原)子	散布地	旧石器～近世	一部消滅
21	古城遺跡	曾木(古城)子	散布地・中世山城	旧石器～近世	一部消滅
22	黒仁田遺跡	曾木(黒仁田)子	散布地	縄文～近世	
23	上田下道跡	笠下(上田下)寅	散布地	縄文～近世	一部消滅
24	岩下北平遺跡	笠下(岩下北平)寅	散布地	旧石器～近世	
25	岩土原遺跡	笠下(岩土原)寅	散布地	旧石器～近世	昭和44年南九州短大により調査
26	笠下ト原遺跡	笠下(下ト原)寅	散布地	旧石器～近世	下原は通称名
27	笠下ゴルフ場遺跡	笠下(塙田外)寅	集落跡	旧石器～近世	一部消滅

2. 延岡市北方町主要遺跡一覧表

I. はじめに

1. 位置と歴史的環境

東原遺跡が所在する延岡市北方町は、宮崎県の北部に位置し、南は門川町・美郷町北郷区、西は西臼杵郡日之影町、北は大分県佐伯市と境を接する。南部を九州山地に源を発する五ヶ瀬川が流れる。北には1,000m級の大崩山・鬼の目山などの山々が連なる。五ヶ瀬川流域や曾木川流域には、阿蘇溶結凝灰岩の台地や河岸段丘が発達しており、遺跡の大半が集中する。

東原遺跡の北西には、AT層下位より石核等が出土した矢野原遺跡がある。縄文時代では、矢野原遺跡、藏田遺跡等で早期の押型文土器・集石遺構が検出されている。前期では笠下下原遺跡で轟B式土器・曾畑上器等が、中期では笠下下原遺跡等で船元式土器がしている。後期では菅原洞穴で鐘ヶ崎式土器等が、晚期では南久保山小堀町遺跡で黒色磨研土器が出土している。

弥生時代では、昭和28年に板付II式土器と思われる土器片が採集されて、宮崎大学に保管されている。後期初頭には瀬戸内系土器の移入も見られる。弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡が、矢野原遺跡、打届遺跡、藏田遺跡、早日渡遺跡等で検出されている。

古墳時代では、後期の箱式石棺が殿上、矢野原、駄小屋、後曾木等で発見されている。昭和12年に県指定史跡となった『北方村古墳』も、後期箱式石棺群の一つである。

古代では、速日峰地区遺跡や南久保山小堀町遺跡等で、若干の遺物が出土している程度である。中世になると、町内各地で六地蔵や五輪塔等が散見される。中世山城跡として、藏田城や仲畠城があるが、笠下遺跡等では祭祀遺構が検出され、備前焼のすり鉢や匁錢等が出土している。近世は延岡藩領となり、木炭生産や鉱山開発が盛んに行われ、明治新政府へと引き継がれた。

2. 調査に至る経緯

北方建設課では、平成17年度から実施している村づくり交付金事業の内、市道川水流獣越線の改良工事を計画し、工事予定地内の埋蔵文化財についての照会を、平成20年7月10日付けで延岡市教育委員会に行った。工事予定地内の確認調査を行なった結果、遺跡と判断された。その後協議を重ね、工事着手前に本調査を実施することになった。

本調査は平成21年8月3日から9月30日にかけて実施し、引き続き整理作業及び報告書作成作業に入った。

3. 調査の組織

調査の組織は、以下の通りである。

調査主体 延岡市教育委員会

教育長 町田 訓久 教育部長 笠江 孝一

文化課長 渡邊 博史 文化課課長補佐 大島 紀世子

文化課文化財係長 山田 雄

庶務担当 文化課文化振興係主任主事 松岡 直子

北方建設課主任主事 甲斐 留美

調査担当 文化課文化財係専門員 小野 信彦

調査指導 宮崎県文化財課

調査協力 宮崎県埋蔵文化財センター、宮崎県総合博物館、宮崎県立西都原考古博物館、

宮崎県市町村埋蔵文化財担当者及び地元関係各位

II. 調査の内容

1. 調査の概要

調査は、工事により昨年度行った確認調査の結果を踏まえ、工事により影響を受ける部分を実施した。東原遺跡(第7次)では、竪穴住居跡を1基検出した。北久保山遺跡(第2次)では土坑と道路状遺構を検出した。東原遺跡の竪穴住居跡と北久保山遺跡の土坑は、アカホヤ層上面から掘り込まれている。遺構に道路状遺構は、厚く堆積する埋土の中間部で硬化面として検出したが、轍は見られない。共伴する遺物が無く時期については不明である。両遺跡ともに縄文時代早期及び旧石器時代の包含層中より若干の遺物を検出している。

2. 基本層序

本遺跡の基本層序は以下の通りである。

I層…表土層(約20cm)

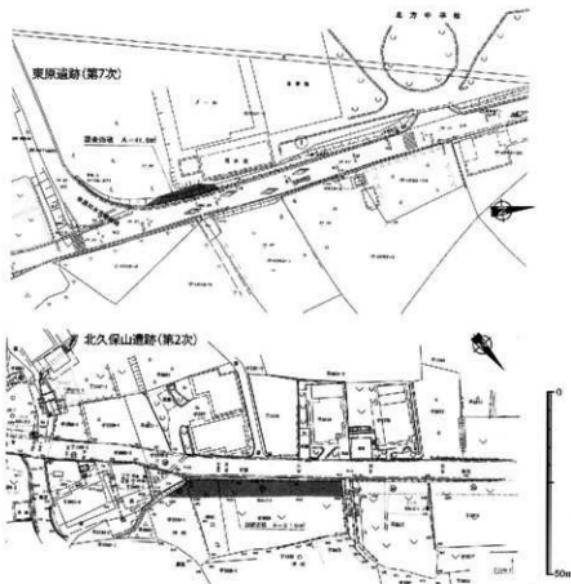
II層…茶褐色土層(約20cm)

III層…黒色土層。パサつく。(約30cm)一部を除き削平されている。

IV層…アカホヤ層(約20cm)

V層…黒褐色土層(約20cm)やや粘質。縄文時代早期の遺物が出土。

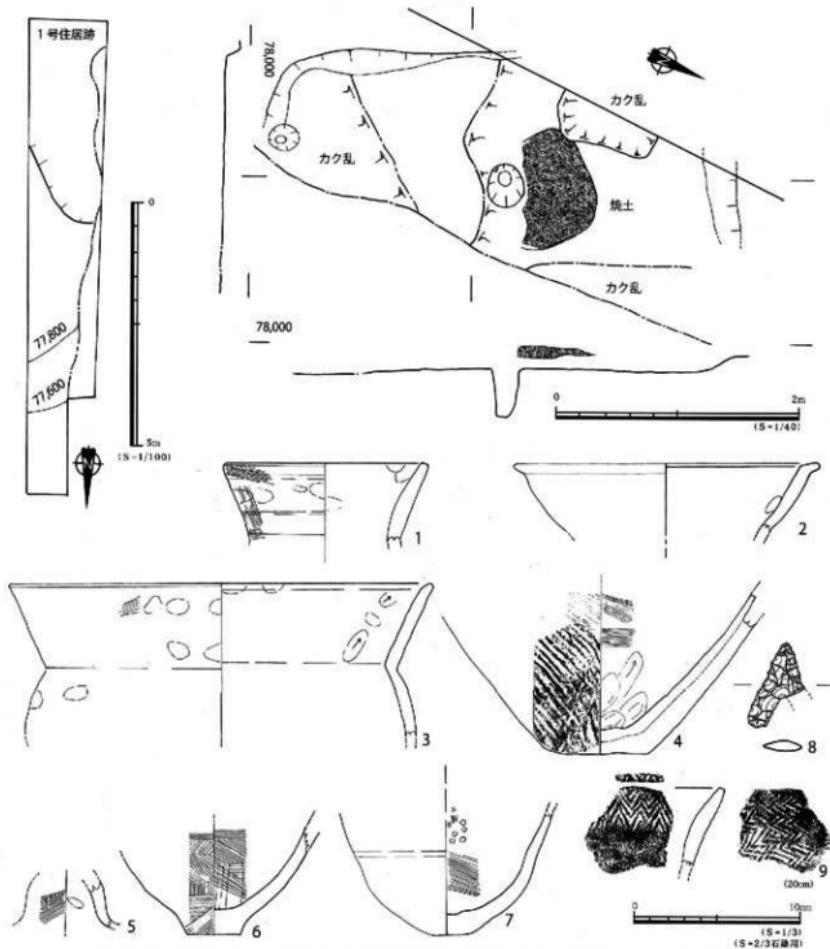
VI層…黄褐色土層(約20cm)粘質。旧石器時代の遺物が出土。



2. 調査位置図 (1/1,500)

3. 東原遺跡

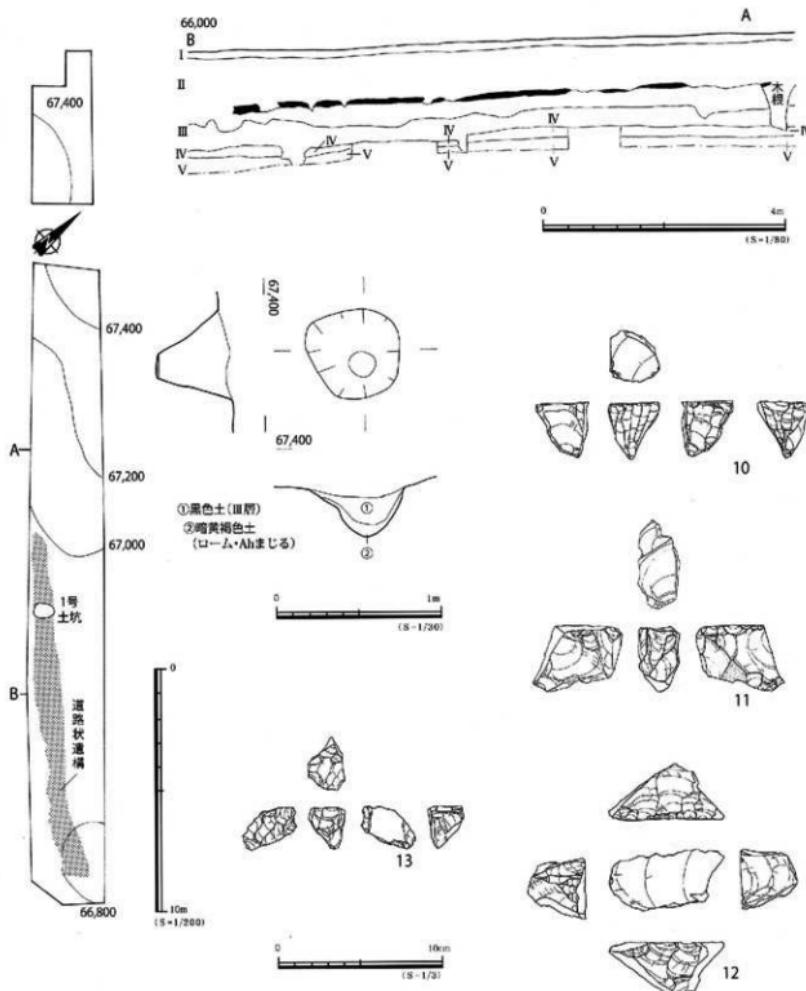
アカホヤ層上面で竪穴住居跡を検出したが、大部分は、以前の市道拡幅工事及び木根等による削平や攪乱により規模、主柱穴等は不明である。床面はほぼ平坦である。柱穴に近接して焼土の集中が見られたが、浅く堆積するのみで掘り込みは確認されなかった。竪穴住居跡の出土遺物には高杯、鉢、甕等があり、時期は古墳時代前期と思われる。南側には一部アカホヤ層が削平を免れて残っており、旧石器時代の剥片や縄文時代早期の押型文土器及びチャート製の石鏃等が出土している。



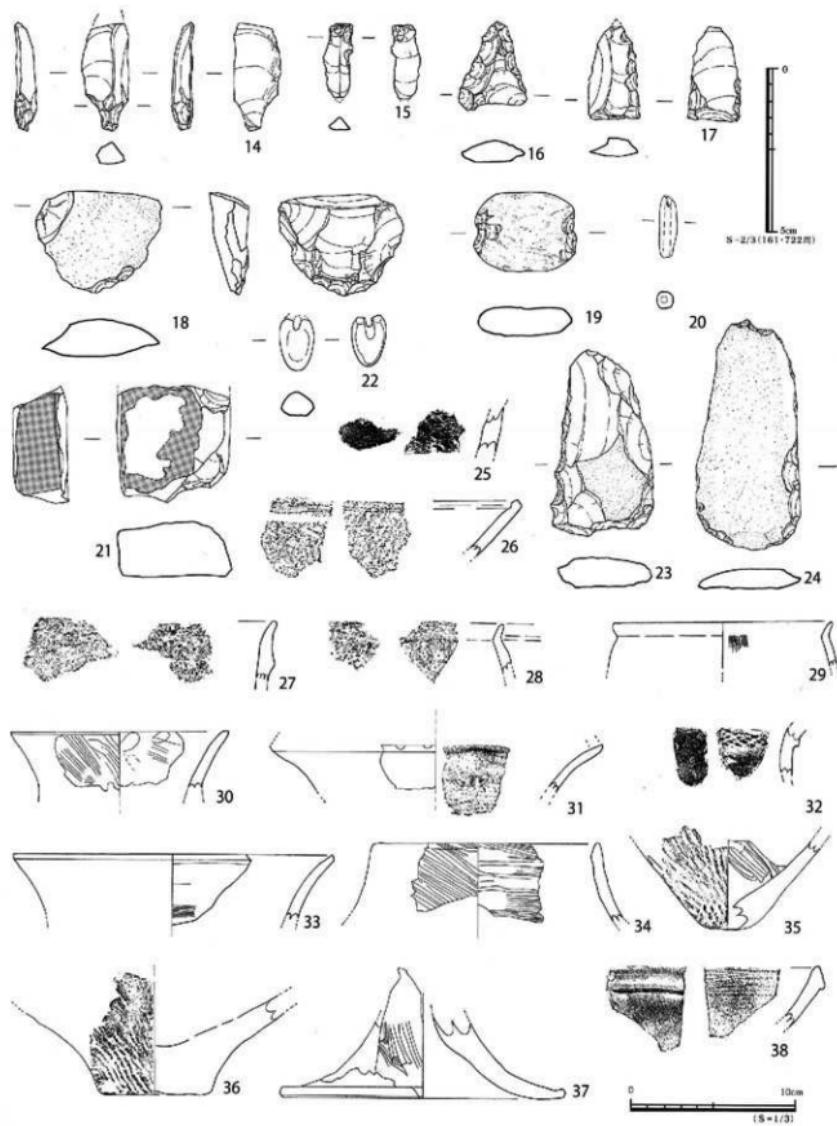
3. 東原遺跡遺構配置図・竪穴住居跡実測図・出土遺物実測図(1/100, 1/40, 1/3, 2/3)

4. 北久保山遺跡

現況は畑であり、アカホヤ層検出面近くまで厚く耕作のための埋土が堆積する。ほとんどの遺物がこの埋土中より出土している。埋土の中間部で硬化面を検出したが、出土遺物は無く時期については不明である。また、アカホヤ層上面から掘りこまれた土坑を1基に検出している。平面形は不定形で断面はすり鉢状を呈する。出土遺物としては、縄文時代晩期粗製深鉢の脛部片が1点のみである。アカホヤ層下位での出土遺物はほとんど無く、調査区南端で細石核と剥片尖頭器等が出土した。しかし、細石刃の出土はなく、剥片・碎片の出土もほとんどない。



4. 北久保山遺跡遺構配置図・土層断面図・検出遺構実測図・出土遺物実測図(1/200, 1/80, 1/30, 1/3)



5. 北久保山遺跡出土遺物実測図 (1/3, 2/3)

5. 遺構と遺物

今回の調査で検出された遺構は、東原遺跡(第7次)で竪穴住居跡を1基、北久保山遺跡で、土坑1基・道路状遺構1基のみである。竪穴住居跡は大部分が木の根による搅乱及び以前の市道拡幅調査により削平されている。出土遺物から古墳時代前期と考えられるが、詳細は不明である。北久保山遺跡で検出した土坑は、埋土のほとんどが黒色土の落ち込みと思われ、中から縄文時代晚期の粗製深鉢削部片が1点出土している。黒色土は縄文時代晚期の包含層と思われるが、出土遺物は多くない。黒色土の上面では、道路状遺構と思われる硬化面を検出した。しかし、遺物の出土ではなく、轍・排水施設等も見られず時期等詳細は不明である。

東原遺跡では、竪穴住居跡から出土した遺物を除くとアカホヤ層下位で縄文時代早期のチャート製の石器や山形押型文上器、旧石器時代の剥片等が若干出土したのみである。工事の大半が旧石器時代包含層まで達するものでないため、ほとんどの地区で包含層が保存されることになった。

北久保山遺跡では、旧石器時代のホルンフェルス製の剥片尖頭器・流紋岩・ホルンフェルス製の船野型細石核、縄文時代晚期の粗製深鉢土器・精製浅鉢土器・砂岩製の打製石斧・弥生時代終末期～古墳時代初頭期の壺・鉢・碗・甕等が出土した。埋土中の出土遺物は各時代にわたっている反面、旧石器時代・縄文時代早期・縄文時代晚期の包含層からの出土遺物は少ない。また、須恵質の口縁部片(38)が北方地区では初めて出土した。鉢とも考えられるが、時期は不明である。今後、類例の増加に期待したい。

6. 出土遺物実測図(1/3)

番号	出土地点	層	巣種(石材)・部位	文様・調整・色調等(外)	文様・調整・色調等(内)	巣長cm (幅高)	巣幅cm (W×H)	厚さcm (巣土)	重 量g (推定)
1	東原(第7次)	1号室	壺・山縁部	ハケ目 ナデ 指揮さえ 黄褐色	ナデ 指揮さえ 黄褐色	12.6	1~2mmの粒子を含む	良	
2	丸庭(第7次)	1号室	鉢・口縁部	ナデ 指揮さえ	ナデ 指揮さえ 紅褐色	18.2	1~2mmの粒子を含む	良	
3	東原(第7次)	1号室	壺・山縁部へ颈部	ナデ 指揮さえ 3スス付着 有褐色	ナデ 指揮さえ 3スス付着 紅褐色	26.0	1~4mmの粒子を含む	良	
4	丸庭(第7次)	1号室	壺・底部	タタキ 指揮さえ 紫色	ハケ目 ナデ 指揮さえ うい深緑色	6.0	3~5mmの粒子を含む	良	
5	東原(第7次)	1号室	高杯・脚部	ナデ 紅色	ナデ 指揮さえ 橙褐色		1~2mmの粒子を含む	良	
6	東原(第7次)	1号室	鉢・底部	ナデ 姫舞え ぶい黄色	ナデ 姫舞え ぶい黄色	3.2	1mm程の粒子を少し含む	良	
7	東原(第7次)	1号室	壺・脚部へ底部	ナデ 指揮さえ 黒っぽい灰色	ハケ目 指揮さえ 紫色 スス付着	2.4	1~2mmの小粒を含む	良	
8	東原(第7次)	5号室	石器・チャート			3.0	1.8	0.3	0.96
9	丸庭(第7次)	5号室	神形文土器・口縁部	山形押型文 茶褐色	二部に山形押型文 茶褐色			1mm程の粒子を含む	良
10	丸庭(第7次)	1号室	細石核・流紋岩	打面調整なし 岸面調整あり		4.1	5.4		25 157.6
11	丸庭(第7次)	2号室	5号室	細石核・流紋岩	打面調整なし 反面調整を施す ブランク	4.4	3.1		29 60.3
12	丸庭(第7次)	3号室	都市部・ホルンフェルス	打面調整なし 反面調整を施す 刮削面調整あり ブランク	7.0	3.8		33 80.8	
13	丸庭(第7次)	6号室	石核・チャート	打面調整あり 打面調整あり		3.30	2.5		22 16.1
14	丸庭(第7次)	6号室	新尖鋸器・ホルンフェルス	打面調整なし 反面調整あり		6.55	2.9		13 21.3
15	丸庭(第7次)	6号室	紅柱岩鉈・ホルンフェルス	打面調整なし 剥離・凸部に使用痕アリ		4.6	1.8		0.8 4.8
16	丸庭(第7次)	1号室	石器・泥岩	剥離前掘		2.75	2.1		0.7 2.5
17	丸庭(第7次)	1号室	加工工場を有する剥離・頁岩	基部加工は粗い 先端部欠損		2.9	2.6		0.5 2.5
18	丸庭(第7次)	3号室	加工工場を有する剥離・頁岩	切削面・削離面の加工は無い 白自然面を有す		6.2	7.7		24 115.11
19	丸庭(第7次)	3号室	石核・斜板岩	打面・刃縫		4.9	6.3		18 75.84
20	丸庭(第7次)	4号室	土器	縫隙部・底部 深ナデによる彫刻		3.9	1.1		0.4 良
21	丸庭(第7次)	4号室	石器・底盤	表面の一部が受熱により丸焼		7.2	7.0		34 259.71
22	丸庭(第7次)	4号室	陶器飾品・蛇紋石	部欠損		1.6	1.0		0.7 1.44
23	丸庭(第7次)	3号室	打製石斧・砂岩	一面自然面が残る 基部欠損		11.3	6.3		1.6 136.6
24	丸庭(第7次)	3号室	打製石斧・砂岩	片面に自然面が残る 基部欠損		14.1	6.2		1.2 157.7
25	丸庭(第7次)	4号室	溪床鉈・肩部	箱内神形文 灰褐色	ナデ 灰褐色			1mm程の粒子を含む	良
26	丸庭(第7次)	4号室	精製浅鉢・口縁部	ヘラミガキ 灰赤褐色	ナデ ヘラミガキ エ赤褐色			赤褐色・30.1~1mm粒	良
27	丸庭(第7次)	4号室	粗製深鉢・口縁部	貼り付け突起文	赤褐色			0.1~2mmの粒子(黄褐色)	良
28	丸庭(第7次)	4号室	鉢・口縁部	ナデ 紅褐色	ナデ 赤褐色～灰色			0.1~2mmの粒子(褐色)	良
29	丸庭(第7次)	4号室	鉢・山縁部	ヨコナデ 淡赤色	ナデ 灰褐色	13.6	0.3mm粒の砂粒含む		良
30	丸庭(第7次)	4号室	壺・口縁部	ハケ目 淡褐色	ハケ目 ナデ 指揮あり 淡褐色	13.4	1~3mm砂粒含む		良
31	丸庭(第7次)	5号室	壺・口縁部(安閑寺系)	ハケ目 鹿骨付	鹿骨山繩の一部残			20mm粒 1~3mm砂粒含む	良
32	丸庭(第7次)	5号室	壺・口縁部	刻み山吹模	暗めの緑色	ナデ 灰褐色		0.1~2mmの粒子(褐色)	良
33	丸庭(第7次)	5号室	壺・口縁部	ナデ 部にスス付着	淡褐色	ナデ ハリシ・スス付着 淡褐色		1~3mm砂粒含む	良
34	丸庭(第7次)	5号室	壺・山縁部	ハケ目 ナデ 指揮あり 淡褐色	ハケ目 ナデ 淡粉色			1~3mm砂粒含む	良
35	丸庭(第7次)	5号室	壺・底部	タタキ 淡褐色	タタキ ナデ 淡褐色			1~5mm砂粒含む	良
36	丸庭(第7次)	5号室	壺・底部	タタキ 淡褐色	風化のため脚細い 淡褐色			1~5mm砂粒含む	良
37	丸庭(第7次)	5号室	括 穂部	ハケ目 指揮さえ 淡褐色	ハケ目 ナデ 淡橙色			1~5mm砂粒含む	良
38	丸庭(第7次)	5号室	括 鉢・山縁部	ナデ 淡黄褐色 スス付着	ハケ目 ナデ 黒色			0.1~2mm砂粒含む	良

III. おわりに

今回の市道改良工事に伴う埋蔵文化財調査では、調査区が拡幅部分のみに限定された上に流土防止の為に土手部分を確保する必要があり、遺構検出に十分な幅を確保できなかった。また、以前の市道工事や木や竹の根による擾乱により調査できる部分が限られ、遺構の検出に困難が生じた。このような状況の中で東原遺跡(第7次)では竪穴住居跡1基、北久保山遺跡(第2次)では土坑1基、道路状遺構を検出した。

遺物では、旧石器時代の加工を有する剥片・剥片尖頭器・細石核、縄文時代の石器・土器、弥生～古墳時代の土器が出土したが、ほとんどは埋土中からの出土である。また、土鍤・石鍤の出土もあり、五ヶ瀬川及び五ヶ瀬川に注ぐ小河川に生息する川魚の獲得という生活の一端を示す資料となった。

旧石器時代では、遺構の検出はなく、包含層からの出土遺物も少ない。工事の多くが包含層までに達しないため、大部分は保存される形となった。しかし、細石核や剥片尖頭器の出土したことで、今後、掘削が伴う開発には十分注意する必要がある。

縄文時代早期では、包含層中から土器や石器が出土したが、集石遺構や連結土坑などの検出はなかった。遺物の出土数は少ない。しかし、埋土中には焼けた礫も混じることなどから、周辺には良好な包含層や集石遺構の存在が予想される。縄文時代晚期の遺物は、弥生時代の遺物と混在して出土している。石製装飾品等の出土例もあり、周辺には祭祀遺構等良好な遺構の存在が予想される。

当地域における弥生～古墳時代の竪穴住居跡の検出例は、これまでの調査例に最近調査された延岡～北方道路の調査事例を加えると50例を超える。その中には、急傾斜地や尾根の端部などから検出した竪穴住居跡の調査例もあり、山間部における集落のあり方を考える上で興味深い。今回は一部の検出であるが、東原地域で初めて竪穴住居跡を検出した。北久保山遺跡では、高杯や甕・鉢等がまとまって出土したが遺構の検出は無かった。今後、周辺の開発事業には十分注意しなければならない。



8. 北久保山遺跡空中写真(東より)



9. 東原遺跡 近景(南から)



10. 東原遺跡 壁穴住居跡検出状況
(北から)



11. 東原遺跡 壁穴住居跡内遺物出土状況
(西から)



12. 東原遺跡 繩文時代早期遺物出土状況
(南から)



13. 東原遺跡 出土遺物(No1~9)



14. 北久保山遺跡 近景(西から)



15. 北久保山遺跡 道路状遺構検出状況
(東から)



16. 北久保山遺跡 土坑検出状況
(北から)



17. 北久保山遺跡 旧石器時代遺物出土状況
(南から)



18. 北久保山遺跡 中学生による発掘調査体験



19. 北久保山遺跡 出土遺物 (No.10~24)



20. 北久保山遺跡 出土遺物 (No.25~38)

報告書抄録

フリガナ	ヒガシバルイセキ・キタクボヤマイセキ					
書名	東原遺跡(第7次)・北久保山遺跡(第2次)					
副書名	平成21年度市道川水流瀬越線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書					
巻次						
シリーズ名	延岡市文化財報告書					
シリーズ番号	第41集					
編集者名	小野信彦					
編集機関	延岡市教育委員会					
所在地	宮崎県延岡市東本小路2-1					
発行年月日	平成22年2月25日					
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東緯	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
ヒガシバル 東原遺跡	延岡市 北方町 川水流 卵	2033 37	32° 34' 4"	131° 31' 37"	2009.8.3～ 2009.8.31	41.6 市道改良事業 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
東原遺跡	包蔵地	縄文時代 弥生・古墳時代	縦穴住居跡	土器・石器等		
フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 東緯	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
キタクボヤマ 北久保山遺跡	延岡市 北方町 北久保山 子	2033 41	32° 34' 41"	131° 31' 48"	2009.8.11～ 2009.9.30	210 市道改良事業 に伴う調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
北久保山遺跡	包蔵地	旧石器・縄文時代 弥生・古墳時代	道状遺構・土坑	土器・石器等		

東原遺跡(第7次)
北久保山遺跡(第2次)
延岡市文化財報告書 第41集
平成22年2月25日

発行 延岡市教育委員会
〒882-0811
宮崎県延岡市東本小路2-1

印刷 安井株式会社
〒882-0697
宮崎県東臼杵郡門川町大字
加草 2725番地